

第15巻, 第16号 総目次

研究報告

- 伝染性下痢症の伝染力に就いて…平山 雄他…15.2
井水飲用による泉熱の感染発症
試験……………児玉 威他…15.2
井水飲用による
泉熱人体感染実験……………長 岐佐武郎他…15.2
赤痢患者同附添人及び家族の
赤痢菌検索……………織 家 実他…15.2
河川の衛生について……………鯉 沼 祐吾他…15.2
日常食品の食品衛生学的研究……………柳 沢 文 徳 他…15.2
産児制限で刻下の人口問題は解決
出来るか……………田 中 正 四…15.2
大日本紡績会社大恒化学工場の集
団赤痢……………白 井 治 郎…15.2
吾々の所謂環境判定標示法につ
いて……………小 机 弘 之…15.2
血清アルカリ性フォスファターゼ
価より見た北海道の佝僂症に
ついて……………北 島 征 男…15.2
日本脳炎後遺症に関する2, 3の
観察……………山口与四郎他…15.2
学童の食事調査(第2報)……………東 義 夫…15.3
新潟県における出生数の減少に
及ぼす人工妊娠中絶の影響…森 田 桂 次…15.3
学童の手指及び手垢の寄生虫学
的汚染度……………富 士 田 猛他…15.3
重層法による人血清コリンエス
テラーゼ活性価の検定法……………田 波 潤 一 郎…15.3
労働環境調査の方法について……………額 田 榮他…15.4
ボーラログラフイーの衛生化
学への試み(第2報)……………松 本 和 夫他…15.4
一保菌者から検出された運動性
を欠した腸チフス菌の性状
について……………松 井 清 治 郎…15.4
強化白米の給与試験及び沢田氏
尿反応の消長……………広 部 智 夫…15.4
農村における尿屎処理施設とそ
の効果について……………川 本 勉…15.4
農村乳児の衛生……………国 見 辰 雄…15.4
農繁期の乳児保育状況について…藤 井 佐 司…15.4
O. M. K 法集団検診成績……………吉 川 貞 衛他…15.3
漁村の生活実態調査……………牧 野 四 郎他…15.4
インフルエンザ・ワクチンに関
する研究……………芦 原 義 守他…15.4
蛔虫感染媒介者としての蔬菜に
関する実態調査……………小 宮 義 孝他…15.5
名古屋地方における腸管寄生原
虫の検索成績……………戸 谷 徹 造他…15.5
松阪管内に於ける受胎調節実施
状況(第2報)……………掃 部 俊 造…15.5
日常食品の食品衛生学的研究……………那 須 昭 夫…15.5
下痢腸炎及び腸潰瘍死亡率の地
域別季節変動……………入鹿山勝郎・他…15.5
日本の家住性鼠の最近の分類……………中 島 文 夫…15.5
青酸ガスに対する抵抗減弱者に
関する研究……………佐 藤 徳 郎他…15.6
石灰窒素のレストピラに対する
作用……………八 田 貞 義他…15.6
ヘノボデ油製剤と四塩化エチレ
ン併用による蛔虫及び鉤虫
の駆除成績……………大 葉 一 兵 衛他…15.6
乳幼児の身体発育判定……………山 口 健 男…15.6
野菜附着蛔虫卵の各種洗滌方法
による除去率について……………小 宮 義 孝他…15.6
秩父地方に於ける戦後妊婦梅毒
血液反応について……………関 根 邦 之 助…16.4
衛生教育を中心とした学校と保
健所との関係について……………石 川 武 彦・他…16.4
飲食品着色料の食品衛生学的研
究……………八 田 貞 義・他…16.4
豚結核と人結核の関係について……………小 林 和 巳…16.6
細菌性赤痢患者に伴う
保菌者検診について……………斎 藤 勇他…16.6
医学の異端者……………土 屋 忠 良…16.6
医科教育と保健科教育……………岡 田 芳 子…16.6
疫学上の新課題……………古 屋 曉 一…16.6
市販乳剤系消毒薬の消毒力
効果について……………熊 沢 泰他…16.6
日本薬学会協定普通室内空気判定

標準改訂案について……………斎藤 功…16.6

統計資料

赤痢流行の動き……………金光 克己…15.1

母子衛生の統計資料……………長瀬 十一太…15.3

赤痢の統計資料……………蟻田 功…16.2

随想

思い出話……………飯村 保三…15.1

昭和28年の公衆衛生への回顧…渡辺 定…15.2

三木行治の県政をきる……………秋田 清…15.3

デフテリアに挑んだ人達……………高橋 功…15.5

新薬ばかり……………三堀 三郎…15.6

フレキシナー先生のプロフィール…大平 得三…16.1

志賀先生を語る……………高野 六郎…16.1

思い出……………志賀 潔…16.1

赤痢とたたかう思い出ばなし…衣川 純三…16.2

井口乗海先生の思い出……………山口 与四郎…16.2

小島三郎先生のプロフィール……………八田 貞義…16.2

座談会

北・金井

実態調査のおしえるもの……………聖成・重松…15.5

佐藤・豊川

石垣

医学界最新の知識を語る……………浅野 秀二、福見 秀雄

林 基之、榊原 仟、佐藤 徳郎、白木 博次

杉 靖三郎、高橋 暁正、吉川 春寿……………16.4

伝染病

新しい伝染病……………15.1

Q 熱……………北岡 正見…15.1

Q 熱(下)……………北岡 正見…15.2

公衆衛生面から見た腺熱……………笠原 四郎…15.1

流行性肝炎のウイルス学……………徐 慶一郎…15.1

伝染性下痢症について……………福見 秀雄…15.1

所謂給食病について……………尾崎 嘉篤…15.1

カンディダ カンディダ症及び

可視粘膜カンディダ症の治療…細谷 省吾…15.1

日本におけるリケツチオジス……………川村 明義…15.1

臨床検査

衛生検査技術者の身分……………秋元 寿恵夫…15.2

淋菌検査法……………市川 篤二…15.2

合理的な梅毒血清検査の実施法…鈴木 鑑…15.2

赤痢菌の検査法……………福見 秀雄…15.2

大腸菌の検査法について……………安 寧 博…15.2

寄生虫の検査……………小宮 義孝…15.2

塵埃検査法……………芦 沢 正 見…15.2

食物中毒菌の検査法……………八田 貞義…15.2

水の検査法……………岩 戸 武 雄…15.2

結核菌検査の心構え……………小川 辰次…15.2

公衆衛生における検査義務……………長友 浪男…15.2

乳幼児衛生

最近の小児衛生問題……………斎藤 潔…15.3

小児結核と公衆衛生……………福島 清…15.3

母子衛生行政……………田波 幸男…15.3

精神薄弱児の発見……………小林 提樹…15.3

未熟児の諸問題……………辻 達彦…15.3

公衆衛生問題としてのビタミンD

欠乏症……………弘 好 文他…15.3

百日咳母子免疫……………岡田 博…15.4

肢体不自由児対策の現況と将来…小池 文英…15.4

乳幼児栄養の最新知識……………宮崎 叶…15.4

保健所における乳幼児保健指

導の重点……………宇留野 勝正…15.4

学校保健の現状……………新井 英夫…15.4

新薬

公衆衛生と新薬……………酒井 威…15.6

癌の治療薬……………石山 俊次…15.6

血圧降下剤……………村上 元孝…15.6

r-グロブリン……………平井 秀松…15.6

輸血代用品……………大村 泰男…15.6

消毒剤……………八田 貞義…15.6

新しい駆虫剤と殺卵剤……………小宮 義孝…15.6

新しい農薬とその中毒……………上田 喜一…15.6

ねずみ昆虫駆除剤……………鈴木 猛…15.6

麻酔に関係ある最近の薬剤……………山村 秀夫…15.6

麻薬と覚醒剤……………竹山 恒寿…15.6

抗酒剤……………高橋 宏…15.6

EDTA について……………勝沼 晴雄…15.6

放射線障害とその対策……………津屋 旭…15.6

放射能による食品の殺菌保存……………尾崎 嘉篤他…15.6

防腐剤のあり方……………宮木 高明…15.6

新しいホルモン剤……………古沢 嘉夫…15.6

薬品の輸入と国産……………小幡 昌利…15.6

赤 痢

赤痢の予防	小島三郎	16.1
赤痢の細菌学	安斎博	16.1
赤痢と疫痢の病理解剖学的所見	嶋田博	16.1
赤痢の治療	長岐佐武郎他	16.1
赤痢と手洗い	児玉威	16.1
赤痢の疫学	松田心一	16.2
疫痢の疫学	山下章	16.2
細菌性赤痢及び疫痢の病理解剖	足立平	16.2
疫痢の治療	内山桂梧	16.2
疫痢に関する諸論争	森重静夫	16.2
赤痢の衛生教育	金光克巳	16.2
赤痢の衛生教育について	隆文雄	16.2
赤痢大流行史	宗像文彦	16.2

食 中 毒

食中毒の疫学	佐竹繁男他	16.2
新しい細菌性食物中毒	福見秀雄	16.3
飲食物によるウィルス性疾患	児玉威	16.3
日本に発生した		
ボツリヌス中毒に就て	遠山祐三	16.3
アレルギー様食中毒	宮木高明	16.3
新しい食品防腐剤	相磯和嘉他	16.3
ソーセージ中毒	新井養老	16.3
納豆の衛生学	尾崎嘉篤	16.3
食品衛生面からみた豆腐	相磯和嘉他	16.3
食品衛生における		
コナダニ類の問題	佐々学	16.3
黄変米の種類と中毒の性質	浦口健二	16.3
カドミウム食中毒の		
1事例について	金行広雄他	16.3

労 働 衛 生

産業結核	千葉保之	16.5
珪肺	勝木新次	16.5
夜間作業	斎藤一	16.5
最近の疲労問題	大島正光	16.5
工業中毒領域における最近		
の進歩	久保田重孝	16.5
産業災害について	斎藤勇	16.5
放射線障害	高橋信次	16.5
忍限度	鈴木武夫	16.5
職業性皮膚障害	野村茂	16.5
衛生管理者の組織	長屋信美	16.5
日本の高温作業	三浦豊彦	16.5
職業性難聴と騒音衛生の動向	池田克明	16.5
工場衛生工学の現状	興重治	16.5
労働寿命	元田紀雄	16.5
最近の珪肺行政の動向	鈴木間左支	16.5
婦人労働	斎藤一	16.5
潜函病	北博正	16.5

放 射 能

原子力医学	都築正男	16.6
エックス線障害	津屋旭	16.6
アイソトープの人体への影響	山下久雄他	16.6
核分裂産物の		
生体内代謝について	佐藤徳郎	16.6
水爆の実験と気象の変化	荒川秀俊	16.6
魚類の放射能汚染	河端俊治	16.6
Health Physicist 教育課程	勝沼晴雄	16.6

そ の 他

結核実態調査について	高部益男	15.4
新潟県衛生研究所		15.5
インフルエンザの疫学	館林宣夫	15.5
赤痢実態調査成績	厚生省	16.1